



三月は円福寺愛育園も、児童の卒業又は職員の離任の別れの季節です。その時の児童や職員の涙を見る

育館で仕事をしていた私のもとに髪を振り乱して走ってきました。その喜びは、きつとこの文を読むと皆様に伝わると思います。ここに、他の仕事では絶対に味わえない児童養護施設の仕事の深い喜びがあります。

と、児童と職員の結びつきは学校と比較にならない程強いことが身に迫ってきました。ここに紹介する

私は、小学二年生の夏、この円福寺愛

文は、信州大学工学部に進む児童が卒業式でお別れの言葉として発表したもので

師弟愛

育園に入所しました。当時、私は、自分勝手な行動をと

す。彼の大きな成長とそれを支える青谷副園長の指導を読み取っていただけだと嬉しいのです。彼の受験番号をインターネットで信州大学の合格者番号の中に発見したとき、青谷副園長は「合格しました！合格しました！」と叫びながら、体

り、周りの人に迷惑をかけていました。友人もうまく作れず、いつしか、作ろうともしなくなりました。時には、物を壊し、屋根に登り、さらには、人に手を出してしまふこともありました。そんな中、小学校六年生の時に、青谷先生が担当になりました。青谷先生が担当になつてか

法話ニコニコ

らは、自分勝手な行動をしてしまった時や、人に迷惑をかけてしまった時に、何がいけなかったのか、どうすれば良かったのかを真剣に話をしてくれ、向き合ってくれました。そのおかげで、少しずつ、自分勝手な行動や人に迷惑をかけることが減ってきたように思います。

中学では、小学校の時にくらべ、だいぶおちついて行動できるようになっていました。しかし、中学でも、原級に入らず、人間関係を築くことができず、友人を作ることができませんでした。そんな時、青谷先生は、私に集団行動や、人の気持ちについて教えてくれました。小中学校時代に教えてもらったことをいつも心にとめて過ごしていました。

高校に入学したときは、新しい環境になり、対人関係や、学習面でとても不安

がありました。そんな中、学校で、一人で弁当を食べていると、クラスメイトが、一緒に食べようと声をかけてくれました。きつと、小中学校時代の私だったら、めんどくさいという気持ちがあり、断っていたと思いますが、その時は、私も、一緒に食べようと言い、数人で弁当を食べました。食べながら、自己紹介をしたり、たわいもない会話をし、お昼の時間を楽しく過ごしました。他の人から見たら、なにげない出来事かもしれませんが、私にとっては、とても大きな出来事でした。今では、友人もたくさんでき、楽しい高校生活を送ることができました。それは、青谷先生が四年間かけて、人との関わり方を一生懸命に教えてくれたおかげでした。

学習面での不安は、私は、小中学校時

代に、特別支援学級に入っていたため、原級の人と同じ勉強はしていませんでした。そのため、高校に入って、みんなの勉強についていけるかとても不安でした。しかし、いざ、入学してみると、自分が、心配していたほどではなく、頑張つて勉強すれば何とかなると思いました。それから、みんなについていくために、必死で勉強しました。必死でやり続けていけると、一年次に予想以上に高い成績を収めることができました。このとき、私の高校の卒業生方に信州大学工学部に入學している人がいることを知りました。高校の先生に尋ねると、専門高校の推薦枠があり、それで入學しているということを知りました。しかし、これには、良い成績が必要だということも知りました。一年間、頑張ったことで良い

成績を収めることができた自分にも、もっと頑張れば信州大学へ行けるのではないかと思い、挑戦することに決めました。高校三年生になると、クラスでも徐々に進路が決まり始めました。そんな中、私が志願していた信州大学工学部電子情報システム工学科の募集定員が六人なのに対し、校内だけで七人の志願者がいることを知り、とてつもない絶望感を抱きました。そして、自分には無理なのではないかと思い、とつた行動が私立大学の資料を集め、青谷先生に持っていき、現実から目をそらすということでした。しかし、青谷先生に持って行った瞬間、自分の逃げの気持ちを見破られました。そして、私に、「そんな簡単に諦めて良いのか。」「たかが、志願者数が多いくらいで諦めるのか。」「やってみなければ分か

らない、当たって砕けるだ。」と、言ってくれました。私は、この言葉を聞き、不安はありましたが、もう一度頑張ろうと、立ち上がりました。また、進学に必要な資金は、アルバイトをして、貯金したり、青谷先生からは、様々な奨学金を提案してもらいました。そのため、現在

では、学費や生活費の心配はほとんどなく、四月からの生活をスタートできそうです。また、先日、園長先生の知人の方から匿名で、私の進学の応援費として寄付をいただきました。私は、この話を聞いて、大変驚きました。匿名なので、どなたか分かりませんが、もしかしたら、私と本当に関係のない方かもしれせん。そう思ったら、自分のために、ここまでしてくださることに、本当に感謝しなければいけないと思いました。また、

大学四年間を一生懸命勉学に励み、充実させなければならぬと感じました。私の愛育園での生活を振り返ってみると、沢山の方々に支えられ、応援してくれる方々がいて、今の自分があるのだと感じています。

最後になりましたが、私が信州大学に進学したいと決めた時から、全力で応援してくださいと決めた園長先生、本当にありがとうございました。進学してからも、何でも、一生懸命に取り組み、自分の夢を実現させたいと思います。そして、約七年間、私の担当をしてくれた青谷先生、奨学金やくじけそうなきに支えてくれたこと、本当に助かりました。青谷先生が担当だったからこそ、今があると思います。本当にありがとうございます。約十一年間、ありがとうございました。